

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(GDP (IMF WEO) :<http://mylibrary.maeda1.jp/GDP.html> )

(MENA・イスラム圏:<http://mylibrary.maeda1.jp/MenaOicCountries.html> )

マイライブラリー:0516

(注)本稿は 2020 年 10 月 17 日から 22 日まで 5 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2020.10.23

前田 高行

## 今年の成長率はマイナス 4.4%、中国だけがプラス成長:IMF 世界経済見通し 2020 年 10 月版

目次	頁
1. 2020/21 年の GDP 成長率	1
2. 前回(2020 年 4 月)と今回(2020 年 10 月)の比較	3
3. 2020年の世界及び主要国の GDP (Current Price)	4
4. 世界および主要地域・国の GDP 成長率の推移(2017~2021年)	5

IMF(国際通貨基金)では毎年 4 月および 10 月に世界各国の経済見通し「World Economic Outlook Database (WEO)」を発表しており、今年 10 月版(以下 WEO2020Oct)がインターネット上に公開された。

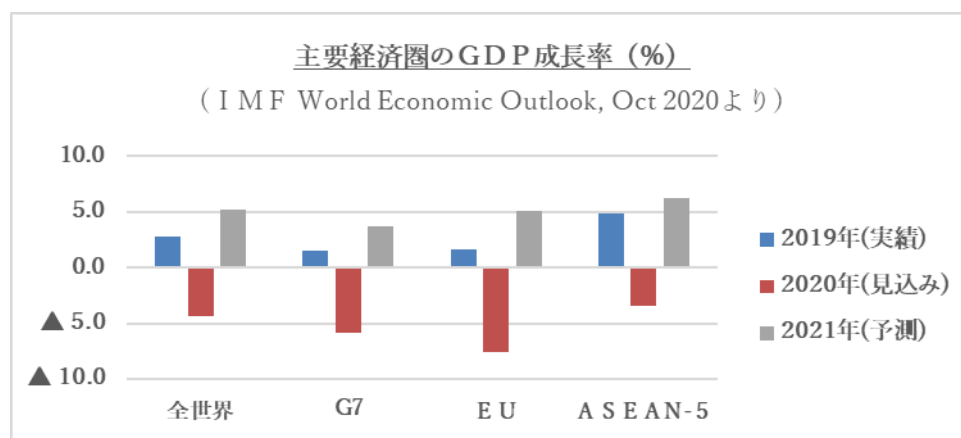
\* URL: <https://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2020/02/weodata/index.aspx>

ここでは 2017 年から 2021 年(予測)までの GDP(current price, ドル建て)を取り上げ、成長率については前回 2020 年 4 月版(以下 WEO2020Apr)<sup>1</sup>と比較して世界と MENA 主要国の経済状況の変化を検証する。

(主要国で中国のみプラス成長、その他は軒並み 5%以上のマイナス成長！)

### 1. 2020/21 年の GDP 成長率(末尾表 1-B-2-08 参照)

#### (1)全世界及び主要経済圏の GDP 成長率



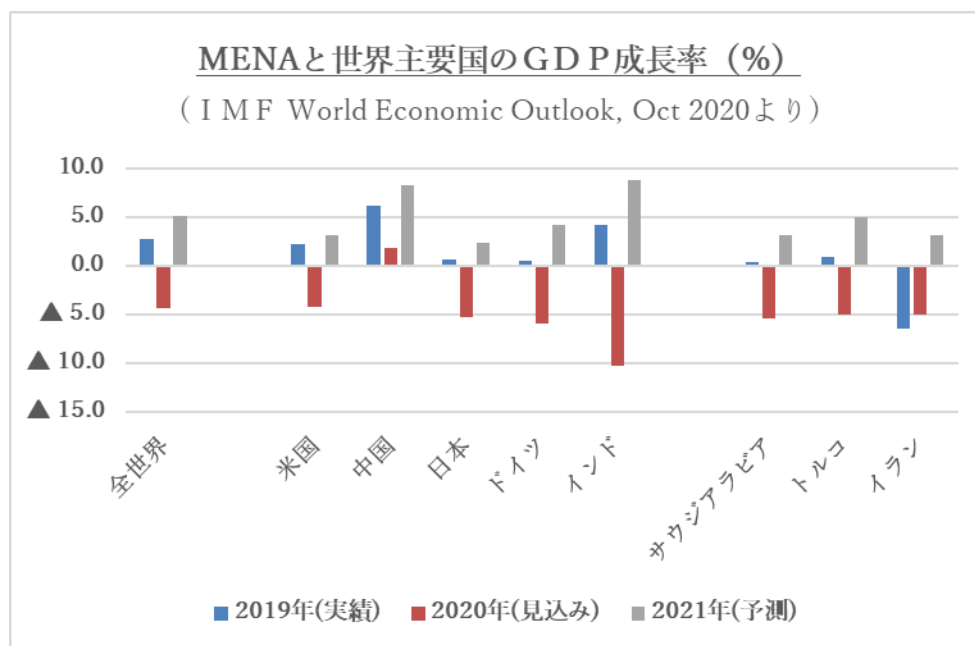
IMF は今年(2020 年)の世界の GDP 成長率を▲4.4%と見込んでいる。言うまでもなく世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスにより、世界ベースで経済がマヒ状態に陥ったためである。

経済圏毎に見ると主要先進 7 カ国(G7)が▲5.9%、EU は▲7.6%、ASEAN5 カ国は▲3.4%とされている。落ち込みは G7、EU などの先進地域で激しく、東南アジア新興国の ASEAN-5 は比較的傷は浅いように見える。

来年(2021 年)は全世界の成長率は 5.2%のプラスになると予測しており、IMF では来年は今年の落ち込みを吸収し、通常の経済成長に戻ると見ている。G7 及び EU の来年の成長率はそれぞれ 3.8%及び 5.0%であり、プラスに転じるものの成長率は世界平均を下回ると見込んでいる。ASEAN5 カ国は今年の▲3.4%から来年は一挙に 6.2%と世界平均を上回る成長が見込まれ、中国(後記)と共に世界経済の成長センターとしての活力を取り戻しそうである。

(経済大国の中で唯一プラス成長を維持する中国！)

## (2)主要国の GDP 成長率



世界及び中東主要国の昨年から来年まで 3 年間の成長率を見ると、まず目につくのは米国、日本をはじめほとんどの国が今年はマイナス成長になっていることである。その中でプラス成長を見込まれているのは経済大国では中国(1.9%)、中東ではエジプト(3.5%)だけである。

日本は昨年の0.7%から今年は▲5.3%のマイナス成長になると予測されている。日本は2018及び19年の過去2年間は1%以下という先進国の中でも低い成長率にとどまっておられ、今年の見込み成長率はリーマンショック時の2009年(▲5.4%)に次ぐマイナス成長である。来年についてはプラス2.3%の成長が見込まれている。

米国の場合、昨年実績はプラス 2.2%であったが、今年は一挙に▲4.3%に落ち込むと見込まれ

る。これに対し来年は 3.1%の成長に戻ると予測され、今年と来年で 7.4%の大きな振幅がある。このような振幅は米国以外の各国でも見られる現象であり、IMF はコロナウィルス問題が終焉すれば世界経済が V 字回復し通常の成長路線に戻ると見ている。

中国は昨年、6.1%の成長率を達成、インドとともに世界経済をけん引していたが、今年の成長率は 1.9%に留まる見込みである。また来年は 8.2%の高度成長を予測している。今年下半期に入り世界各国が低迷する景気から抜け出せない中で中国の経済回復は目覚ましく、IMF は来年同国が再び突出した高い成長率を達成すると見込んでいる。

インドの今年の成長率は▲10.3%と見込まれている。昨年のプラス 4.2%の成長から一気に落ち込むが、来年は中国を上回る 8.8%の成長が予測されており、同国の経済変動の振幅はかなり大きい。

MENA の主要国の 3 か年の成長率は、サウジアラビアが 0.3%(昨年)→▲5.4%(今年)→3.1%(来年)であり、トルコは 0.9%→▲5%→5%、イランは▲6.5%→▲5.0→3.2%である。3 か国とも今年はいマイナス成長であり、来年はプラスに転じると予測している。イランはサウジアラビアと同じ産油国ではあるが、米国の経済制裁により昨年は▲6.5%のマイナス成長であった。今回のコロナウィルス問題でもイランは中東で最も大きな影響を受けており、二年連続でマイナス成長を強いられている。来年プラス成長に転じることができるかイラン経済は極めて厳しい状況に置かれている。

(4 月よりもさらに下方修正された産油国！)

## 2. 前回(2020 年 4 月)と今回(2020 年 10 月)の比較(末尾表 1-B-2-08 参照)

### (1) 世界および主要経済圏の比較

上述のとおり今回(WEO2020Oct)の全世界の成長率見通しは今年(2020 年)が▲4.4%、来年(2021 年)は 5.2%である。これに対して前回(WEO2020Apr)の見通しでは両年の成長率はそれぞれ▲3.0%、5.8%であり、本年は 1.3%また来年は 0.6%いずれも下方修正されている。IMF では新型コロナウイルスの影響が予想以上に大きく、また長期化すると見ているようである。

2020 年の見通しについて主要経済圏を前回と比較すると、G7 は前回の▲6.2%から今回は▲5.9%と若干改善している。一方 EU は▲7.1%から▲7.6%に一段と悪化する見通しである。ASEAN-5 は▲0.6%→▲3.4%と悪化の度合いは EU 以上である。経済大国よりも発展途上国がコロナウィルスの影響を顕著に受けていると言えよう。

主要経済圏の来年(2021 年)の GDP 成長率の見通しについて前回と今回を比較すると、G7 は 4.5%→3.8%であり、ASEAN-5 は 7.8%→6.2%と景気回復が遅れると予測している。これに対して EU は 4.8%→5.0%に上方修正されている。

### (2) 主要国の比較

今年の成長率については中国が前回の 1.2%から今回は 1.9%に上方修正された。しかしインド

は逆に 1.9%から▲10.3%と大幅に下方修正されている。インドは米国に次ぐ世界 2 位のコロナ感染者が発生している。中国が COVID19 を抑え込んだ一方、インドは拡大がおさまらず、経済成長も明暗がはっきり分かれた格好である。

中印以外の世界主要国の今年の成長率は以下のごとく見直されている。

米国(▲5.9%→▲4.3%)、日本(▲5.2%→▲5.3%)、ドイツ(▲7.0%→▲6.0%)、英国(▲6.5%→▲9.8%)、韓国(▲1.2%→▲1.9%)、ロシア(▲5.5%→▲4.1%)

いずれの国もマイナス成長に変わりはないが、米国、ドイツ、ロシア 3 か国は多少の改善が予測されている一方、日本、英国、韓国はマイナス成長がさらに拡大すると見込まれている。

また中東の主要国の今年の成長率の見直しは以下のとおりである。

サウジアラビア(▲2.3%→▲5.4%)、トルコ(▲5.0%→▲5.0%)、UAE(▲3.5%→▲6.6%)、イラン(▲6.0%→▲5.0%)、イスラエル(▲6.3%→▲5.9%)、イラク(▲4.7%→▲12.1%)

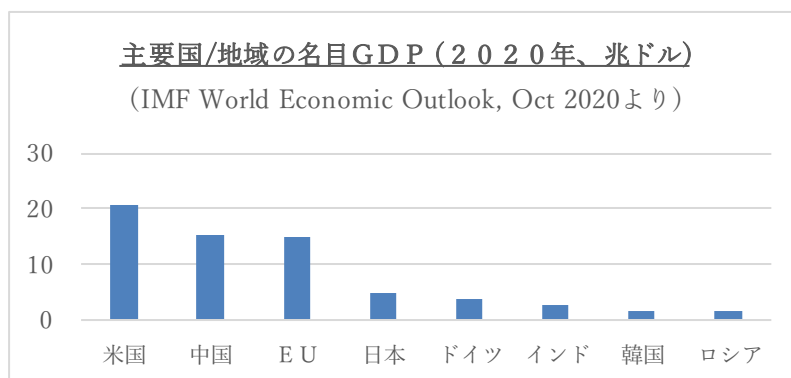
イスラエル及びトルコの成長率が改善または現状維持であるのに対し、サウジアラビア、UAE、イラクの産油国の成長率が下方修正されているのが特徴的である。世界景気の回復が遅れ、石油の需要が低迷していることが原因と考えられる。

また 2021 年の成長率はすべて国でプラス成長とされているが、4 月の予測に比べほとんどの国が下方修正されており、コロナ禍が長期化し景気の回復がずれ込んでいることを反映している。例えば米国の場合、4 月には来年の成長率を 4.7%と予測したが、今回は 3.1%と低めに修正されている。日本も 3.0%から 2.3%とされており、その他の国々も中国(9.2%→8.2%)、ドイツ(5.2%→4.2%)、韓国(3.4%→2.9%)、ロシア(3.5%→2.8%)に下方修正されている。上方修正されたのは英国(4.0%→5.9%)及びインド(7.4%→8.8%)である。

中東諸国について見ると、サウジアラビア、トルコ、イラン、エジプト、イスラエル各国は 4 月の予測に変化は無いが、UAE(3.3%→1.3%)及びイラク(7.2%→2.5%)は経済の回復が遅れると予測されている。

(米国と中国 2 カ国だけで世界の GDP の 43%を独占！)

### 3. 2020年の世界及び主要国の GDP (Current Price)(末尾表 1-B-2-09 参照)



IMF によれば今年の世界の GDP(at Current Price)総額は84兆ドルと見込まれる。昨年の GDP は88兆ドルであり、今年は昨年比4.4%少なくなっている。

84兆ドルのうちG7は38兆ドルで全体の46%を占め圧

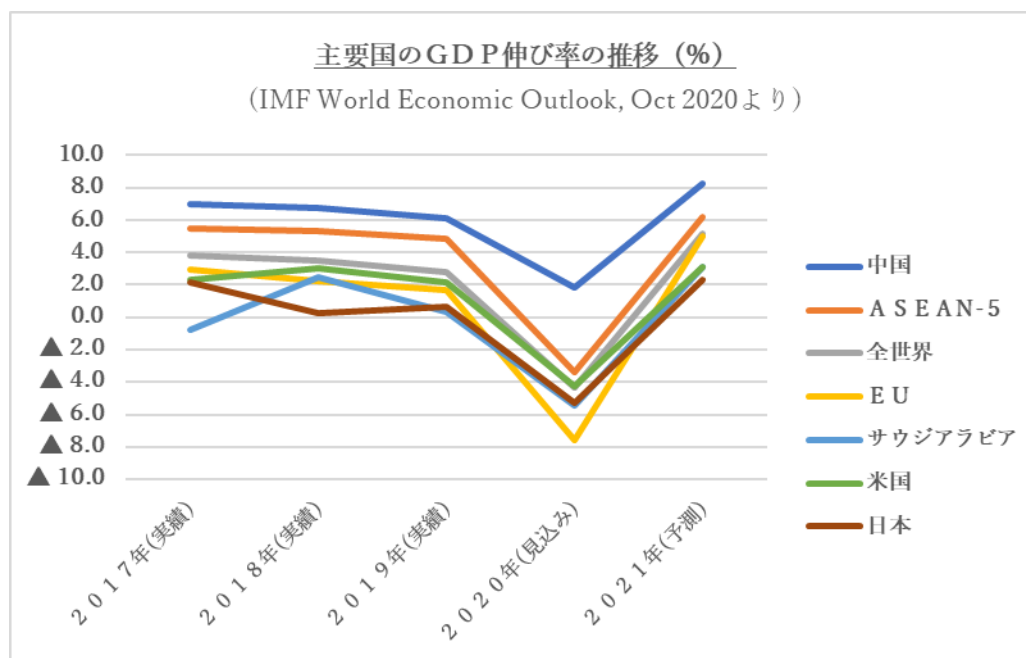
倒的な存在感を示している。EUのGDP総額は15兆ドル(全世界の18%)、ASEAN5か国は2.6兆ドル(同3%)である。

国別では2020年のGDPの世界ベストテンは米国が世界トップ(21兆ドル)で全世界に占める割合は25%、同国一国だけで世界のGDPの4分の1を生み出している。米国に次ぐGDP大国は中国の15兆ドルであり世界全体の18%を占めている。この2か国が突出し世界全体のGDPの43%を占めている。前節で見た通り中国はコロナ禍の今年も米国がマイナス成長に陥る中でプラス成長を達成する見込みであり、また来年は高い成長率が予測されている。今後両国のGDP格差が急速に縮まることは間違いなく、両国の貿易・経済摩擦は一層激しくなるであろう。

第3位は日本(4.9兆ドル)で、これは米国の4分の1あるいは中国の3分の1である。第4位以下10位までは、ドイツ(3.8兆ドル)、英国、インド、フランス(各2.6兆ドル)、イタリア(1.8兆ドル)、カナダ、韓国(1.6兆ドル)である。因みにEUのGDP15兆ドルは世界第3位に相当する。

11位から20位まではロシア、ブラジル、オーストラリア、スペイン、インドネシア、メキシコ、オランダ、スイス、サウジアラビアそしてトルコの各国である。中東諸国ではサウジアラビアが世界19位、トルコが世界20位にランク付けされている。このほかの主要な中東諸国はイラン(世界22位)、イスラエル(同30位)、エジプト(同34位)、UAE(同35位)、イラク(同52位)、カタール(同55位)の各国である。

#### 4. 世界および主要地域・国のGDP成長率の推移(2017~2021年)(末尾表 1-B-2-11 参照)



(今年的大幅な落ち込みから来年は回復成長路線に戻れるか?)

##### (1) 世界および主要経済圏

世界全体の成長率は2017年から2019年までプラス3%前後で推移していたが、今年は▲4.4%に急落、来年は5.2%に回復するとIMFは予測している。

経済圏別で見ると G7 の成長率は2019年まで2%前後の成長を続けたのち、今年は▲5.9%と世界平均を下回るマイナス成長となり、来年はプラス3.8%に回復する見通しである。EU は2017年の成長率が3.0%であったが、その後2.3%(18年)、1.7%(19年)と年々落ち込み、2020年はコロナウィルスの影響で世界平均を大きく上回る▲7.6%に落ち込む見込みである。2021年は今年の反動で5.0%のプラス成長に転じると予測している。

ASEAN-5か国は他の経済圏に比べ高い成長率を達成している。同地域は2017年から19年まで5%前後の成長率を維持しており、2020年は他の地域と同様コロナウィルスの影響を免れず▲3.4%のマイナス成長にとどまると予測されている。来年については V 字回復し6.2%の成長が見込まれている。

(5年間を通じてプラス成長を達成すると見られる中国！)

## (2)世界と中東の主要国

日本の成長率は2017年は2.2%であったが、2018、19年はそれぞれ0.3%、0.7%の低い成長率にとどまった。2020年は▲5.3%の大幅なマイナス成長になり、2021年には一転して5年間で最も高い2.3%の成長が予測されている。これは世界平均の5.2%、G7 の3.8%に比べて決して高くないものの、過去の実績を勘案するとなお高いハードルと言えそうである。

米国の過去3か年の経済は先進国の中でも特に好調であり、2.2%~3.0%の成長を維持してきたが、今年(2020年)は▲4.3%と急落する見込みである。来年は一転して3.1%の成長率を達成すると予測している。中国は2017年から2019年まで6%台の成長を維持している。今年はコロナウィルスの影響を受けるものの日米のようなマイナス成長にはならず、1.9%のプラス成長を達成すると見込まれている。来年はV字回復し、8.2%の高い成長率を達成するものと予測される。近年中国と肩を並べる成長を続けているインドは、2017年以降2021年まで7.0%→6.1%→4.2%→▲10.3%→8.8%と今年は大幅なマイナス成長に陥っている。

中東の主要国を見ると、GDPが中東で最大のサウジアラビアは原油価格下落の影響を受けて2017年は▲0.7%のマイナス成長に陥っている。2018年と2019年はプラス成長を達成しているが、今年は▲5.4%に転落、来年は回復して3.1%のプラス成長に戻ると予測されている。サウジアラビアに次いで GDP が世界20位のトルコは2017年に7.5%と言う高い成長率を記録している。その後の2年間は3.0%→0.9%と成長率が鈍化し、今年は▲5%のマイナス成長に陥る見通しである。来年は成長路線に回復すると見込まれる。

イランの GDP 成長率は2017年に3.7%を達成したが、その後米国の経済制裁の影響を受け、18年▲5.4%、19年▲6.5%とマイナス成長に陥り、今年はコロナ禍、原油安の影響も加わり▲5.0%と3年続けてマイナス成長に苦しんでいる。IMF は同国が来年は3.2%のプラス成長に戻ると予測しているが予断を許さない状況である。

エジプトの成長率の推移は4.1%(17年)→5.3%(18年)→5.6%(19年)→3.5%(20年)→2.8%(21年)とされ、コロナウィルス問題の下でも安定した成長が見込まれている。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

**MENAと世界主要国の GDP 実質成長率(2020-21年)**

国名	2020年10月見通し(今回)			2020年4月見通し (前回)		前回/今回比較	
	2020年 成長率 (%)	2021年 成長率 (%)	増減	2020年 成長率 (%)	2021年 成長率 (%)	2020年 成長率 (%)	2021年 成長率 (%)
全世界	▲ 4.4	5.2	9.5	▲ 3.0	5.8	▲ 1.3	▲ 0.6
G7	▲ 5.9	3.8	9.7	▲ 6.2	4.5	0.4	▲ 0.7
EU	▲ 7.6	5.0	12.6	▲ 7.1	4.8	▲ 0.5	0.3
ASEAN-5	▲ 3.4	6.2	9.6	▲ 0.6	7.8	▲ 2.8	▲ 1.5
米国	▲ 4.3	3.1	7.4	▲ 5.9	4.7	1.6	▲ 1.7
中国	1.9	8.2	6.4	1.2	9.2	0.7	▲ 1.0
日本	▲ 5.3	2.3	7.6	▲ 5.2	3.0	▲ 0.1	▲ 0.7
ドイツ	▲ 6.0	4.2	10.2	▲ 7.0	5.2	1.0	▲ 1.0
英国	▲ 9.8	5.9	15.7	▲ 6.5	4.0	▲ 3.3	1.9
インド	▲ 10.3	8.8	19.1	1.9	7.4	▲ 12.2	1.4
韓国	▲ 1.9	2.9	4.7	▲ 1.2	3.4	▲ 0.7	▲ 0.5
ロシア	▲ 4.1	2.8	6.9	▲ 5.5	3.5	1.4	▲ 0.7
サウジアラビア	▲ 5.4	3.1	8.5	▲ 2.3	2.9	▲ 3.2	0.2
トルコ	▲ 5.0	5.0	10.0	▲ 5.0	5.0	0.0	▲ 0.0
UAE	▲ 6.6	1.3	7.9	▲ 3.5	3.3	▲ 3.1	▲ 1.9
イラン	▲ 5.0	3.2	8.1	▲ 6.0	3.1	1.0	0.0
イスラエル	▲ 5.9	4.9	10.8	▲ 6.3	5.0	0.4	▲ 0.1
エジプト	3.5	2.8	▲ 0.8	2.0	2.8	1.6	▲ 0.1
イラク	▲ 12.1	2.5	14.6	▲ 4.7	7.2	▲ 7.3	▲ 4.7



**2020年 GDP at Current Price(2020年10月値)**

(単位:10億ドル)

国名	2020年	%	2019年	増減	増減率(%)
全世界	83,845	100.0%	87,552	▲ 3,707	-4.4%
G7	38,137	45.5%	39,659	▲ 1,523	-4.0%
EU	14,927	17.8%	15,622	▲ 695	-4.7%
ASEAN-5	2,642	3.2%	2,735	▲ 92	-3.5%
米国	20,807	24.8%	21,433	▲ 626	-3.0%
中国	15,222	18.2%	14,732	490	3.2%
日本	4,911	5.9%	5,080	▲ 169	-1.1%
ドイツ	3,781	4.5%	3,862	▲ 81	-1.6%
英国	2,638	3.1%	2,831	▲ 192	-5.1%
インド	2,593	3.1%	2,869	▲ 276	-10.5%
韓国	1,587	1.9%	1,647	▲ 60	-2.3%
ロシア	1,464	1.7%	1,702	▲ 238	-15.0%
サウジアラビア	681	0.8%	793	▲ 112	-7.7%
トルコ	649	0.8%	761	▲ 112	-16.4%
UAE	354	0.4%	421	▲ 67	-10.4%
イラン	611	0.7%	584	27	7.6%
イスラエル	383	0.5%	395	▲ 11	-1.8%
エジプト	362	0.4%	302	60	15.5%
イラク	178	0.2%	230	▲ 52	-14.4%

1-B-2-12 世界上位 20 カ国と中東主要国の GDP (2020 年、at current price)

G7	G20	順位	国名	10 億ドル	%	累計
*	*	1	米国	20,807	24.8%	
	*	2	中国	15,222	18.2%	43.0%
*	*	3	日本	4,911	5.9%	
*	*	4	ドイツ	3,781	4.5%	53.3%
*	*	5	英国	2,638	3.1%	
	*	6	インド	2,593	3.1%	
*	*	7	フランス	2,551	3.0%	
*	*	8	イタリア	1,848	2.2%	
*	*	9	カナダ	1,600	1.9%	
	*	10	韓国	1,587	1.9%	68.6%
	*	11	ロシア	1,464	1.7%	
	*	12	ブラジル	1,364	1.6%	
	*	13	オーストラリア	1,335	1.6%	
		14	スペイン	1,247	1.5%	
		15	インドネシア	1,089	1.3%	
		16	メキシコ	1,040	1.2%	
		17	オランダ	886	1.1%	
		18	スイス	708	0.8%	
	*	19	サウジアラビア	681	0.8%	
	*	20	トルコ	649	0.8%	38.1%
		21	台湾	636	0.8%	
		22	イラン	611	0.7%	
		30	イスラエル	383	0.5%	
	*	31	アルゼンチン	383	0.5%	
		34	エジプト	362	0.4%	
		35	UAE	354	0.4%	
	*	42	南アフリカ	283	0.3%	
		52	イラク	178	0.2%	
		55	カタール	148	0.2%	
		59	クウェイト	109	0.1%	
		74	オマーン	62	0.1%	
			全世界	83,845	100.0%	
			(EU)	14,927	17.8%	
			(G7)	38,137	45.5%	
			(G20)	63,696	76.0%	

**GDP 対前年伸び率(%、2020年10月値)**

国名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
全世界	3.8	3.5	2.8	▲ 4.4	5.2
G7	2.3	2.1	1.6	▲ 5.9	3.8
EU	3.0	2.3	1.7	▲ 7.6	5.0
ASEAN-5	5.5	5.3	4.9	▲ 3.4	6.2
米国	2.3	3.0	2.2	▲ 4.3	3.1
中国	6.9	6.8	6.1	1.9	8.2
日本	2.2	0.3	0.7	▲ 5.3	2.3
ドイツ	2.6	1.3	0.6	▲ 6.0	4.2
英国	1.9	1.3	1.5	▲ 9.8	5.9
インド	7.0	6.1	4.2	▲ 10.3	8.8
韓国	3.2	2.9	2.0	▲ 1.9	2.9
ロシア	1.8	2.5	1.3	▲ 4.1	2.8
サウジアラビア	▲ 0.7	2.4	0.3	▲ 5.4	3.1
トルコ	7.5	3.0	0.9	▲ 5.0	5.0
UAE	2.4	1.2	1.7	▲ 6.6	1.3
イラン	3.7	▲ 5.4	▲ 6.5	▲ 5.0	3.2
イスラエル	3.6	3.5	3.4	▲ 5.9	4.9
エジプト	4.1	5.3	5.6	3.5	2.8
イラク	▲ 2.5	▲ 0.1	4.4	▲ 12.1	2.5

<sup>1</sup> 2020年4月版については下記参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0500ImfWeoApr2020.pdf>